

夢を、心を、
技術をつなぐ

TVE
100年史

一、信頼される企業として

社会の進歩に貢献する

一、誠実と融和により

健康で活気ある職場をつくる

一、経営の刷新と

技術の開発につとめる



太田 常太郎

虫印バルブ製造／社長
1940年4月5日～1970年11月1日
東亜バルブ株式会社／会長
1970年11月1日～1971年11月1日

勲章



1958年12月

船舶および火力発電用の弁体弁座の研究と高温高圧用安全弁の発明に対し、紫綬褒章を受章



1965年11月

バルブの発明考案ならびに永年のバルブ業界における功績に対し、勲三等に叙せられ瑞宝章を受章

歴代社長



太田 常太郎

虫印バルブ製造 / 社長
1940年4月5日
～1970年11月1日
東亜バルブ株式会社 / 会長
1970年11月1日
～1971年11月1日



松本 淳治

東亜バルブ株式会社 / 会長
1951年12月1日
～1953年9月1日



谷田 友治

東亜バルブ株式会社 / 会長
1953年9月1日
～1964年11月1日



高橋 健助

東亜バルブ株式会社 / 社長
1970年11月1日
～1973年5月1日



太田 保則

東亜バルブ株式会社 / 社長
1973年5月1日
～1985年2月17日



川久保 信行

東亜バルブ株式会社 / 社長
1985年12月1日
～1992年12月20日



瀬崎 行雄

東亜バルブ株式会社 / 社長
1992年12月20日
～1999年12月17日



佐々木 篤

東亜バルブ株式会社 / 社長
1999年12月17日～2000年3月15日
株式会社トウアバルブ
グループ本社 / 社長
2000年3月15日
～2006年12月1日



浅岡 實

株式会社トウアバルブ
グループ本社 / 社長
2006年12月1日～2010年4月1日
東亜バルブエンジニアリン
グ株式会社 / 社長
2010年4月1日～2011年12月22日



唐澤 裕一

東亜バルブエンジニアリン
グ株式会社 / 社長
2011年12月22日
～2015年12月22日



真鍋 吉久

東亜バルブエンジニアリン
グ株式会社 / 社長
2015年12月22日～2017年12月22日
東亜バルブエンジニアリン
グ株式会社 / 会長
2017年12月22日～2018年12月21日



笹野 幸明

東亜バルブエンジニアリン
グ株式会社 / 社長
2017年12月22日
～2020年9月30日
株式会社TVE / 社長
2020年10月1日～現在

取締役および執行役員 (2021年12月24日現在)



平野 重充
取締役・常勤監査等委員

奥井 一史
取締役・執行役員

浜本 光浩
取締役(社外)・監査等委員

角谷 正昭
取締役・常務執行役員

生川 友佳子
取締役(社外)・監査等委員

有松 清高
取締役・専務執行役員

川上 浩
執行役員

笹野 幸明
代表取締役・社長執行役員

永井 貴之
執行役員

飯田 明彦
取締役・常務執行役員

山田 善男
執行役員

三宅 利幸
取締役・常務執行役員

梶村 英孝
執行役員

田中 博之
常務執行役員

〔後列右より〕

〔前列右より〕

バルブ製造事業

当社の製品は、設計・開発段階から製造、技術部門が連携し、材料から吟味することでバルブの鋳物から製品加工までを一環して自社で行っています。お客様からの高い要求にも応えられるよう製造工程では熟練技術の研鑽、メカトロ化、IT化を進め、より良い製品品質の向上に努め、高温高圧バルブメーカーとして世界に自信を持って高品質なバルブを提供しています。



メンテナンス事業

高温高圧バルブの製造メーカーとしての技術を生かした電力設備の建設、設置、機能の維持と保全を目的とするメンテナンス業務のほか、技術に関するコンサルタント業務も行っています。



製鋼事業

当社の鋳鋼製品は、鋳造設計から材料発注、生産管理、溶解、鋳込み、熱処理、試験、検査などの各プロセスにおいて、徹底した品質管理のもと生産されています。当社の高温高圧バルブに求められる品質を満たす製品はもちろんのこと、化学プラント、建設機械、船舶といったさまざまな性能が求められる各種産業用の鋳鋼製品を、安定供給しています。

除染事業

東日本大震災の影響による福島地域の再生に取り組むべく、除染事業への参画、減容化施設などでの放射線管理業務、福島第一発電所内での管理業務、設備管理業務に取り組んでいます。今後は減容化施設での管理業務などにも参画して事業領域を拡大し、原子炉廃止措置事業へ本格的に参入していきます。





代表取締役・社長執行役員

辻野 幸男

当社は、本年（2022年）3月10日で、創業満100年の佳節を迎えることができました。これもひとえに、永年に渡り支えていただいた多くのお客様をはじめ、協力会社や関係会社の皆様のご支援の賜物であり、また従業員の努力の結晶であると深く感謝し、ここに厚くお礼を申し上げます。

創業者の太田常太郎は、若くして独立を目指し、1922（大正11）年3月10日、29歳のとき、大阪の地で「太田工業商會」を創業し、その後「虫印バルブ製作所」と改名いたしました。この由来は、創業者が幼い頃に夢中だったクワガタ虫のように耐久力の強いバルブを日本の発展のために造るとの理想を掲げ、そのために仕事の「ムシ」となり、世のために「無私」の精神で貢献するとの決意と情熱を込めたものでした。さらに、「東亜バルブ」、「東亜バルブエンジニアリング」への社名変更を経て、2020（令和2）年10月に現在の「TVE」に変更いたしました。

これまでの当社の長い歴史において、船舶のバルブ製造に始まり、石油、火力、原子力の各分野で、日本初となる国産化バルブなどへのチャレンジを通して、高品質で耐久性の高いバルブを多く提供することで、発電プラント業界において信頼されるバルブブランドを目指してまいりました。特に世界の高温高圧の火力プラントと日本の原子炉の安全弁や重要弁において、数多くの実績を残すことができました。

これは、ひとえに創業当初からの精神を失わず、技術伝承と社会貢献に重きを置きながら、これまで震災やさまざまな困難もバネにしつつ、全てのステークホルダーの皆様を支えられ、「人の力」、「つくる力」、「まもる力」を大切にしてきたことで実現できたものと考えています。

現在、企業の平均寿命が一般的に30年程度と言われる中で、100年企業は世界で約8万社、日本で3万3,000社と言われています。長寿企業とはいえ順風満帆で進んできた企業は1社ありませんが、長く存続している企業という強みを生かし、今後も維持していきたいと考えます。

今後もパンデミックや、巨大災害、急激なマーケットの変化、経済の悪化など、私たちに襲う多くの苦難が到来すると思いますが、創業者の使命感や会社の理念など根幹となるものは決して変えず、新しいものを取り入れ、製品やサービスなどを柔軟に変化させながら、社会の課題を本業としていくSDGs推進企業として、現在世界で2,000社ある200年企業を目指してまいります。

「信頼される企業として、社会の進歩に貢献する」という理念と、「世界のエネルギーインフラに貢献するグローバルニッチトップ」というビジョンと、「今、第2の創業の時」のスローガンを掲げて、新たな変革と開発の道を歩んでいきたいと考えています。

2022年10月



目次

社是・創業者	2
歴代社長	4
取締役および執行役員	5
事業紹介	6
ごあいさつ	10

沿革

第1章 戦前の歩み -1945

1-1 前史	18
太田常太郎の生い立ちと太田工業商會の起業／挫折を乗り越えて	
1-2 法人としての歩み	21
虫印バルブ製造(株)の設立／東亜バルブ(株)に社名を変更／虫印バルブ青年学校／立花工場など相次いで製造拠点を新設／工場が次々と被災、やがて終戦へ	

第2章 復興 1945-1969

2-1 マイナスからのスタート	27
特別経理会社として財務の立て直し／労働組合の結成／製造現場の再生／安全弁を足掛かりに復活の道を歩む／株式上場などを通じた資本の充実	
2-2 技術開発に邁進し、道を切り開く	33
海外有力企業とのパートナーシップ／高温・高圧弁分野で国産品の存在感を示す／省力化や生産効率化のための設備類の開発／原子力発電所用弁の研究開発と実用化／社内報の発行／独身寮「東亜寮」の建設／ホワイトブロンズの開発と東亜機材(株)の設立	

第3章 経営の継承と分社 1970-1999

3-1 メンテナンス事業の分離	43
第2代高橋健助、第3代太田保則へ経営継承／東亜エンジニアリング(株)設立／東京拠点の設置など TEK 設立後の体制整備／安全弁テスト事業への挑戦と挫折／谷田定雄の第2代 TEK 社長就任／TEK における放射線管理体制の整備・確立／米国原子力発電所事故の影響を乗り越えて	
3-2 停滞期の TOA	51
不況の中 LNG 用超低温弁などに活路を見いだす／品質管理や労働安全衛生への取組み／インド BHEL 社との提携／社員の経営参加を促す提案制度／NC 機器の導入による自動化推進／福利厚生や就業環境の充実	



3-3

さらに技術を磨き、存在感向上を図るTOA 58
 弁座摺り合わせロボットや弁自動診断装置 TACS の開発 / 太田保則 TOA 社長逝去、川久保新社長へ / 榎高田製鋼所への支援 / 小集団活動から TQC 活動へ / OB 会の発足と活動 / ティー・エス・ケー(株) (現トウアサービス(株)) の設立 / 瀬崎行雄が TOA 社長に就任 / 阪神・淡路大震災の発生

3-4 躍進する TEK 68

電力業界の転機 / TEK 東京支店の動き / 経営基盤の充実 / 戸田正弘の社長就任と TEK ニュースの創刊 / 作業所業務改革と定検期間短縮への挑戦 / 研修センターの開設とさらなる業務改革 / 6 年超にわたる高業績、新本社ビルも取得

第4章 再結集 2000-2022

4-1 協業推進 76

TOA と TEK の再結集に向けた模索 / 佐々木篤の社長就任と TVG 本社の誕生 / フェニックス作戦にて収益力向上を図る / メンテ事業改革や技術大会を通じた連携強化 / シンガポール法人「TOA VALVE OVERSEAS Pte. Ltd.」の設立

4-2 グループ再編の完成 82

高田製鋼所を会社分割により TOA に吸収 / 浅岡實が TVG・TOA・TEK の社長に就任 / 着実な技術伝承～泊原発の加圧器安全弁納入 / 中国における事業展開と技術提携 / TOA と TEK が合併し東亜バルブエンジニアリング(株)に / TVE 版「下町ロケット」(JAXA への納入)

4-3 原発事故による視界不良の中で 89

東日本大震災と当社の対応 / 唐澤裕一が TVE

社長に就任 / 「七本の矢」作戦 / 福島復興に向け東亜クリエイト(株)を設立 / 新たな方向性の模索 / 真鍋吉久の TVE 社長就任とキッツとの提携 / 第 1 次中期経営計画の策定・公表 / 監査等委員会設置会社に移行

4-4 新たな企業像の模索 99

笹野幸明が新社長に就任 / TAMES Project がスタート / 伊賀工場の新たな挑戦 / 専門性を高めた Web サイトへリニューアル / TVE リファインメタル(株)を設立 / 榎 TVE へと改称し新たな百年に漕ぎ出す / 太陽電業(株)が TVE グループの一員に

特集

TAMES Project - TVE の新たな挑戦	109
TVE の事業活動と SDGs の関わり	112
TEST LABO	114
職場紹介	115
グループ会社紹介	120
バルブができるまで	122

資料編

会社概要	130
事業所一覧	131
出張所一覧	132
グループ会社一覧	133
機構図	134
組織の変遷	135
売上高の推移	136
経常利益の推移	138
従業員数の推移	140
資本金の推移	142
大株主の推移	143
年表	144

編集後記

凡例

- ・本書の記述内容は、原則として2022（令和4）年3月末までとした。
- ・人名および企業名の敬称は省略した。
- ・年号は西暦を基本とし、本文中の各項目の初出時のみ和暦を付した。
- ・会社名、団体名、役職名は当時の名称を用い、のちに変更された場合は、初出時にその名称を付した。
- ・原則として、引用文は原文のままとした。
- ・用字用語は常用漢字、現代かなづかいによったが、固有名詞などはこれによらないものがある。

資料編に掲載した財務数値については、下記のとおり。

- ・有価証券報告書などを出典とした。
- ・連結財務および連結会社「旧東亜バルブ⇒トウアバルブグループ本社⇒東亜バルブエンジニアリング⇒TVE」の単体財務の情報を中心に記載した。その他子会社「旧東亜バルブエンジニアリング」を参考のため掲載した。その他子会社の旧高田製鋼所は未記載とした。
- ・各財務数値は、上場以降の「有価証券報告書」または単体の「事業報告書」を参照した。
- ・掲載項目は、上記の連結会社の変遷もあり、1973年まで6カ月間での表示とした。



沿革

History

第1章

戦前の歩み — 1945

第2章

復興 1945 — 1969

第3章

経営の継承と分社 1970 — 1999

第4章

再結集 2000 — 2022